



# No.136



ひまわりガーデン代官山坂【くるるえびす】



画廊のような廊下【くるるえびす】



節分イベント【目黒恵風寮】



風のガーデンこまば【目黒恵風寮】

## INDEX

令和5年度新三役からのご挨拶…………… 2  
 令和4年度 第3回知的発達障害部会 総会  
 …………… 5  
 「第35回心をつなげる福祉マラソン大会」報告  
 …………… 6

利用者支援研究会合同学習会…………… 7  
 人権擁護委員会「じんけんBoard」 …………… 8  
 施設紹介「目黒恵風寮」…………… 10  
 施設紹介「渋谷区くるるえびす」…………… 11  
 リレーコラム、編集後記…………… 12

●発行所 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  **東京都社会福祉協議会**

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ (<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>) からご覧いただけます。



# 令和5年度新三役からのご挨拶

## 「部会長就任にあたって」

部会長 小池 朗  
(板橋区立赤塚福祉園)



3期目の部会長を務めさせていただくこととなりました。これまでの3年余り、新型コロナの流行があったとはいえ、十分な部会活動も行うことができず、申し訳なく思っています。これからの2年間、コロナ禍で

経験したことを無駄にせず、会員の皆様とともに部会活動を作っていきたいと思えます。知的発達障害部会は、事業種別も入所、通所、児童、成人と多岐にわたり、東京都以外に所在する施設・事

業所も数多くあります。このように様々な立場の人々が集まり、それぞれの意見を交わしてきたことは、部会の特徴でもあり、とても良いことだと感じています。新型コロナの影響により、集まる機会は少なくなってしまいましたが、オンラインの良さも取り入れながら、少しずつ対面で集まる機会を増やしていきたいと思えます。今後も感染症への対策は必要ですが、会員の皆様におかれましては、障害のある人たちのより良い生活の実現のため、活発な部会活動へのご協力をお願いいたします。

## 改めてダイバーシティ&インクルージョンを大切に！

副部会長 金澤 正義  
(社会福祉法人武蔵野会 東堀切くすのき園)



今期3期目の副部会長を務めさせていただきます。今期は当部会の施策検討・調査研究合同委員会の委員長も務めることとなりました。引き続き、現場で奮闘されている会員施設の皆様の声や想いを大切に、役員・

幹事・委員の皆様と協力しながら、東京の障害福祉向上のために頑張ります。

さる2月19日、コロナ禍で中止が続いた当部会主催の心をつなげる福祉マラソン大会が3年ぶりに開催されました。約170名のランナーと伴走者が大島小松川公園に隣接した荒川河川敷コースを元気に駆け抜け、会場は歓声と笑顔で一杯になりました。部会の実行委員の面々にとっても大変嬉しい大会再開となりました。

私は住まいのある自治体のスポーツ推進委員や勤務先の葛飾でポッチャ協会の活動などにも携

わっているのですが、活動を通じて、スポーツとは人として育まれるための必須の文化であり、大切な権利であり、全ての人々の生活で生涯にわたり身近に存在すべきで、街づくりにもつながるのだと学びました。スポーツには「する」「観る」「支える」「聴く」「読む」「話す」などいろいろな側面があり、競技種目を問わず大変奥深い営みです。多様性が尊重され誰も取り残されることのない地域共生社会づくりの上でも重要です。早いもので来年2024年7月からはパリオリパラがやってきますが、両大会のエンブレムはこれまでのオリパラでは初めて同一のエンブレムが使用されるとのことで実に画期的ですね。

スポーツの取り組みも含め、これからの部会活動でもぜひダイバーシティ&インクルージョンを大切にしていきたいと思えます。どうぞよろしくをお願いいたします。

## 『今こそ力を合わせ障害福祉の向上を』

副部長 月岡 亮  
(社会福祉法人つるかわ学園 町田通勤寮)



副部長を務めさせて頂くことになりました。身の引き締まる思いと共に大きな責任を感じております。

知的発達障害部会に関わらせて頂くようになり20年、当時の「従事者会」のメンバーとしてスタートし、多くの先輩方から学びの機会を頂き、恵まれた環境で活動をさせて頂きました。知的障害者支援に携わる多くの方々との出会いは、知を共有し育てあう場として貴重な財産となっております。

さて、コロナ禍が続く中、ウクライナ情勢、流

通不良、原材料高騰での物価高や円安など心が痛む出来事と同時に各施設の運営にも様々な影響が出ております。

私たちはどのような状況下でも、障害のある人たちの「心豊かな安心した暮らし」を保障し、利用者・職員みんなが笑顔になることが大切です。そのために、会員施設それぞれが事業所でまとめ、地域間で連携を図り、会員施設がチームとなり東京の福祉を考えていきたいと思っております。

微力ではありますが、皆様と協力しながら前へ進んでいきたいと思っております。

## 「お金と人」

副部長 有賀 弘  
(社会福祉法人しあわせ会 白州いずみの家)



この4月より非力ながらも副部長を務めさせて頂くこととなりました。私個人としましては、25年前より利用者支援研究会（当時は「従事者会」と言っていました）に役員として

関わらせていただいたことからスタートし、支援スタッフ会、保健医療スタッフ会等を経て、直近では災害対策委員会や都外施設特別委員会に携わりつつ、今に至っています。振り返ってみると、ただ長いだけで何も貢献できていませんでしたが、自分自身は大いに勉強させてもらえました。

四半世紀東社協に関わる中で変化を感じたことは、「施設長の皆さんがお金のお話をあまりしなくなってきたこと」でしょうか。措置時代の役員会では、施設長さんたちの話は「お金」の話が中心で、一支援員の私には「何のことやら？」といった記憶があります。しかし、制度が変わっていく中で、いつの間にかお金よりも「利用者の支援や人材育成」に関わる話が多くなってきているように感じます。お金の話は大切とは思いますが、利用者や人材に関わることを中心に話ができる役員でありたいと考えています。

## 「つながりの先にあるもの」

副部長 高橋 加寿子  
(社会福祉法人田無の会たんぼぼ)



就職して2年目、専門委員会の研修委員会の委員を始まりに、ブランクありながらその後人権擁護委員会の委員、本人部会支援委員会では初代委員長となり、前期まで入所施設分科会

代表幹事と、部会活動とは少なからぬご縁で現在に至ります。

当時は支援者として、若さと元気しかないただのヒヨコでしたが、訳も分からず先輩から引き継いだ研修委員会で、現在もお付き合いの続く出会いがありました。諸先輩方や、同じ志の仲間に教えられ、影響され、励まされる環境で、「人は人

とのつながりで人生を紡いでいく」ことを実感しました。いくつかの現場でたくさんの利用者さんとも出会いました。同じ時代をともに生きる者として出会い、支援者として何かの役にたつことが、私自身のこれまでの「つながりの成果」でありたいと思っています。

今期より部会の副部長に任命されました。役員の皆さま方と比してはるかに知識も経験も薄いと自覚していますが、自身の勉強のつもりで他の役員の皆さまと連携していきたいと思います。そしてまたこの「つながり」が、何かのお役に立つことを願っています。

## 「事務局長就任にあたって」

事務局長 松下 功一  
(社会福祉法人文京槐の会 は〜と・ピア2)



今期より事務局長を仰せつかりました。大きな責任に身の引き締まる思いです。

文京区の障害者地域自立支援協議会に権利擁護専門部会が出来、その委員への就任を打診さ

れて自分の不勉強さに気づき、「何か学ばなければ」と慌てて人権擁護委員会が実施していた研修「高山塾」に参加してから早12年が過ぎました。

その後、人権擁護委員会の活動を通して多くのの方々から、どんなに時代が変わっても変えてはいけない利用者支援の本質を学ばせていただきまし

た。また、他施設の職員さんから日々悩みながら支援をされている様子を伺い、自分に何ができるか考え続けた年月でもありました。私が障害者支援の仕事に就いた30年前、先輩から「就職したのは法人ではなく業界」と言われたことが今でも心に残っています。

1981年の国際障害者年のテーマは「完全参加と平等」。知的に障害のある方々の権利が十分に擁護されていると実感できる日を目指して、微力ではありますが、会員の皆様と協力して前進していきたいと思っています。

# 令和4年度 第3回知的発達障害部会 総会

広報委員 坂口 啓（調布福祉園）

令和4年度第3回総会は令和5年1月31日（火）に約3年ぶりとなる会場での開催と、初のZOOMによるライブ配信を組み合わせたハイブリット型での開催となりました。議決事項についても、会場とオンライン機能を活用し、採決を行いました。

## ●東京都行政説明

- ・令和5年度予算案のポイントについて
  - ・計画課よりお知らせ
- (1) 日中活動系サービス推進費の見直しについて
  - (2) 指定事務の財団委託について
- ・施設サービス支援課所管事業について
- 5つの事業についての説明がありました。
- ・連絡事項等
- (1) 施設・事業所における事故防止対策の徹底について
  - (2) 施設・事業所における虐待防止体制整備の徹底について
- 上記の件について各担当から、説明がありました。

## ●議決事項

- ①令和4年度補正予算（案）について
- ②令和5年度部会費の徴収について
- ③知的発達障害部会規定の一部改正について
- ④令和5年度事業計画（案）について

- ⑤令和5年度予算（案）について
  - ⑥令和5・6年度役員体制（案）について
- これらの議決事項について、会場、オンラインで過半数の承認を得られたため、可決されました。

## ●報告事項

- ①令和4年度叙勲・表彰受章者のご紹介
  - ②本人部会からの報告
  - ③感染症対策衛生用品の備蓄および、災害時見舞金のご案内
- について報告がありました。

## ●記念講演

「見えないから見えたもの～パラリンピックの経験を通して～」講師として、パラリンピックでもご活躍された、参天製薬株式会社 よしはら しげお 葭原 滋男氏より、ご講演をいただきました。ご自身の視覚障害という視点から、当事者としての思いなど、講演を通して直接聞くことができ、普段、知的障害をお持ちの方々と関わる私たちにとっても、支援について考え直す、いい機会となりました。また、常に「自分には何ができるのか」「どうすれば、障害を乗り越えることができるのか」など、前向きな視点は、私たちが普段、支援する上でも大切な視点だと、改めて感じました。貴重なご講演ありがとうございました。



# 「第35回心をつなげる福祉マラソン大会」報告

大会実行委員長 荒木 一彦

第35回心をつなげる福祉マラソン大会は、令和5年2月19日（日）、大島小松川公園で3年ぶりの開催となりました。私たち実行委員会は、withコロナでの大会開催に向けて、会場である荒川河川敷などで実際にマラソン大会を企画運営している「株式会社 社団コミュニケーションズ」に本大会の運営サポートを依頼し、大会準備を進めてまいりました。

感染症対策としては、ランナーが密にならないよう、種目ごとにスタート時間をずらしたり、自動タイム計測を導入することでタイムの読み上げをなくしたりしました。また、事前説明会を初のオンラインで開催し、みなさんが安心して大会当日を迎えられるよう、取り組みました。

8月には、恒例となった会員施設の皆様へのイラスト公募を行い、「走る」をテーマに、過去最多の139点のご応募をいただきました。どれも躍動的で素敵な作品ばかりの中、25点のイラストを選定させていただきました。ご自身の作品がTシャツやプログラムといった物として手にとれる喜びが浸透してきたように思います。

9月には、昨年からはじめた大会ホームページの開設により、FAX申し込みだけでなく、ネット申し込みも可能にしました。

そして、これまでも当日ボランティアとして参加して下さっていた「東京ウエストライオンズクラブ」からは、大会への協賛金も寄与していただき、Tシャツ制作資金として活用させていただきました。

準備万端で大会当日を迎え、ランナーは伴走者も合わせて168名となりました。10名の実行委員に加え約40名のボランティアスタッフ、ご家族や施設職員等の応援も含めると約300名が大会に参加されました。スターターは知的発達障害部会長である小池氏が務めてくださり、5kmの部と10kmの部を3つのグループに分けスタートしました。ランナーの皆さんによる協力もあり、招集からゴールまでスムーズに進めることが出来ました。正午には春のような暖かさとなり、汗ばんだランナーが次々とゴール。応援スタッフが拍手でランナーを迎え、多くの笑顔と活気に溢れていました。

今大会は自動タイム計測の導入により、ゴール後に完走証（記録証）をお渡しできるようにしていましたが、思った以上に時間がかかってしまい、その場でお渡しできず後日郵送となった方もおり、大変申し訳ございませんでした。そのようなトラブルにもしっかりと向きあい、また次大会に向けて改善していきたいと思っております。そして、前大会の企画でもあった「オリンピック聖火トーチ」を手にとってもらおうと受付前に設置したところ、多くの方が記念撮影をしていただき、もう一つの思い出になったようで良かったです。

次大会は、令和6年2月18日（日）開催予定としています。また、大会で多くの皆さんと笑顔でお会いできることを願っております。



## 「本人中心の支援から虐待防止を考える」報告

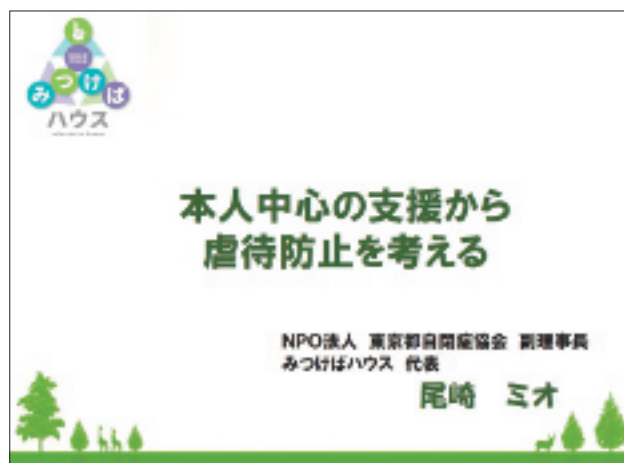
利用者支援研究会事務局長 横塚 健

利用者支援研究会では3月16日に合同学習会を行いました。

今回は講師に尾崎ミオさんをお招きして「本人中心の支援から虐待防止を考える」をテーマにお話しして頂きました。

尾崎さんには数年前にも合同学習会で講師をして頂き、当事者目線でのお話をたっぷりとお聞かせいただきました。その際の学習会の内容が大変好評だったため、今回は虐待防止及びハラスメントについて尾崎さんの視点でお話しいただきたく、尾崎さんに講師依頼をしたという経緯に至ります。

今回の学習会の中では、尾崎さんのパーソナルな部分や、「みつけばハウス」のお話、虐待防止以外にもハラスメントのお話、途中でケースをいくつか挙げて参加者にも意見や各事業所の取り組みなど、取り上げて頂きました。私が今回の学習会の中で特に印象に残った言葉が「マイルドなおせっかい」です。支援者としては、利用者の方に「視野を広げて欲しい」など支援者の思いが先行しがちになってしまったり、「～なければならない」という固定観念をもってしまうことが多々あると思いますが、ただこちらの思いを押し付けるのではなく、本人の主体性を大事にしながら、様々なことを提供していくことが重要

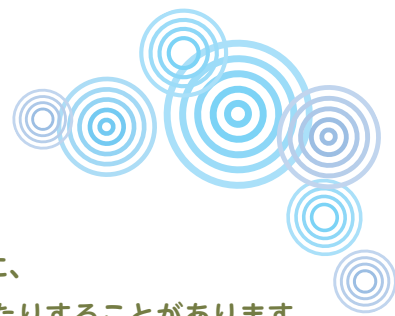


なことだと感じました。

資料の中で「ゆるめる、ゆるしあう、ゆるやかに」という言葉が記載されていました。虐待のニュースを目にすると、様々な理由はあると思いますが、心にゆとりが持てていなかったのも理由の一つとしてあるのではないかと思う時があります。今の社会でもそうですが、何かあるとその人を叩くといった風潮があり、そういった風潮がとても寂しく感じます。心にゆとりをもって、思いやりの心を持つことが虐待防止に少しでも繋がってほしいと切に願います。

最後に、尾崎さんが仰っていた言葉で「正しい支援より、楽しい支援！」この言葉を胸にしまいながら、支援者も楽しんで、楽しい支援を提供していければと思います。

# じんけん Board



わたしの



支援を通した利用者とのかかわり、ご家族との会話の中や地域の方などが集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

いつも使用するランドリー内の整理整頓や物品を新しく新調して下さった職員さん。いつも細かい所まで気にかけてくださり感謝です。

いつも元気に挨拶をしていて、ご利用者にも笑顔で話しかけている職員さん。凄いと思っています。見習いたいです。

忘れの事故を受け、早急にチェック表を作成していた職員さん。意識することで忘れを防ぎ、ご利用者の健康状態が保たれるなど思いました。

複数のご利用者にいつも同じ目線で丁寧に対応している、その姿勢ににやりほっとしています。

ご家族に1年間の様子を伝えたいと考え、写真集を作成していました。ご家族が喜ばれる素敵な取り組みだと思いました。

季節行事の際に、より雰囲気を出すためにBGMを流していた職員さん。ご利用者も楽しそうにしている、とても良い支援だと思いました。

隔離期間が終了したご利用者さん、ユニットへ出てきて他利用者と抱き合ってたくさんお話をされていて感動的なシーンでした。

グループワークを行い、日々の支援の中で、良いと思う関わり方を支援員それぞれが日々模索し実施しているのだと改めて考えさせられました。方法は様々で、各々の思いやりと支援員としての誇りを持っている支援員の皆様にニヤリです。

いつも物品倉庫の整理をしてくれている職員さん。重い荷物もある中きれいに整理するのは大変だと思います。いつもありがとうございます。

職員のお手伝いを積極的にしてくれている利用者さん。いつも助かっています。



支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

最優秀作品

感じよう  
その時気づく  
気持ちの差

作：花粉症

作品背景

支援をする側の気持ちが優先になっていないだろうか。支援を利用する方の感じ方は、分かります。それでも研修を通して、気持ちを実際に感じてみる、疑似体験をして、改めてハッと気付く事はないだろうか、自分の支援を振り返る事の大切さを忘れずにいたいです。

優秀作品

「もしかして」  
周りと違う  
その勇氣

作：てんとつ虫

作品背景

利用者さんの支援に関する事を職員間で話し合っ共有していく事は、とても大切な事だと思います。会議の時も、先輩との意見交換の時も、自分の意見が、周りと違う意見だと感じたら、発言しづらい事もあると思います。でもそれは、もしかしたら、きっと利用者さんが気付いてほしいと待っている事かもしれません。

入選作品

みられてる  
初心の心  
忘れずに

作：ゆきだるま

作品背景

慣れは怖いと思います。自分が見られる立場になった時に、どんな時でも、それを真似する後輩が居る事、そして、その支援を見ている(評価する)利用者さんが居る。利用者さんが居るからこそ、この仕事ができる事を忘れないようにしたいと思います。

文えれば  
箸と塵取り  
使えます！

作：りんごあめ

作品背景

歩行が覚束ない利用者さん。移動時は支援員が片側を支えます。最近参加し始めた公園清掃で、初めはトングを片手にゴミ拾いでしたが、そのうち片手に箒、もう片手に塵取りを持って掃き掃除を始めました。両手を動かしている、ふらつく事もあります。利用者さんからしたら支援員がしっかり支えてくれるという安心感があるのではと感じます。二人三脚で地域の「綺麗」を支えています。

「なぜだろう」  
迷路みたいな  
面白さ

作：うべんす

作品背景

利用者さんの行動や言葉に、なぜだろう、どうしてだろう、と疑問に思う事があります。あれかも、これかもと、推測しながら支援をしていくと、発見できる事があります。それが、この仕事の面白さだと感じています。

発車迫る  
それでも貫く  
マイペース

作：ポピー

作品背景

送迎車の出発時刻は毎日決まっています。出発に間に合うように帰りの支度を始めますが、この利用者さんの時間はとてもゆっくり流れているのか、動作一つ一つがとてもゆっくりです。支援員がお手伝いすることもあります。どこまでもマイペース。時折、急かしたりしますが、焦り一つ見せずにマイペース。送迎車への乗車は遅れがちですが、「ブレずに自分のペースを貫く」って凄いな、と思いました。さて、発車まで、あと3分。上着はまだ着ていない。

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局  
chiteki@tcs.w.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

# 施設紹介

## 目黒恵風寮

### <目黒恵風寮ってどんなところ？>

目黒恵風寮は多くの学生が利用する駒場東大前駅から徒歩5分、池尻大橋駅から徒歩7分ととてもアクセスの良い場所にあり、都心でありながら緑豊かな環境に囲まれています。知的障害を持つ方々が90名暮らしています。

### <施設の特徴>

目黒恵風寮は1954年に「救護施設目黒恵風寮」として発足しました。約70年に及ぶ年月の中で多くの知的障害を持つ方々が施設を利用し、現在は平均年齢が60歳を超え、平均障害支援区分が5を超えています。都内の施設で最も高齢化と障害支援区分の重度化が進んでいる施設と言われています。

### <日々の暮らしを丁寧に>

目黒恵風寮のめざすところのひとつに「利用者の日々を満たす」というものがあります。知的障害を持つ方々は「今このとき」を純粋に楽しむことが得意です。得意を活かして「今このとき」を目一杯楽しんでいただいて、満たされた心を明日に繋ぐことの繰り返しですが、豊かな人生なのではな

いだろうかと思っています。

利用者の素敵な笑顔は支援者の力にもなります。日々顔を合わせる利用者と支援者の関係は、管理する側とされる側ではありません。支援者は目黒恵風寮で暮らす利用者、そして支援者自身がのびのびと心地よく満たされた日々を送ることができるように、役割に責任と誇りをもって支援します。

### <目黒恵風寮のこれから>

施設が現在抱えている高齢化と重度化という課題は、そのまま利用者のニーズです。多様なニーズに応えるため、リハビリテーションルームやほっとできるお部屋でゆったりと時間を過ごしていただいたり、明るく広い空間でものづくりや体操でリフレッシュしていただいたり、風のガーデン（写真）でコーヒーや軽食を楽しんだりしていただきたいと思っています。また地域の方々や学生さんたちにも目黒恵風寮の活動に加わっていただいています。明るく開放的で、用がなくても顔を出したくなる場所づくりに取り組んでいきます。



紙粘土で作るオーナメント



昔の電車が好きなの！！



節分イベント 気合を入れて鬼になりきる支援員



風のガーデンこまば

# 施設紹介

## 「渋谷区くるるえびす」

### 【施設紹介】

渋谷区くるるえびすは令和3年4月に区立の生活介護施設(定員20名)として開所しました。(運営受託法人：社会福祉法人友愛学園)。場所は恵比寿駅、代官山駅どちらからも徒歩10分程度のところにあります。高齢者施設、保育園、グループホームなど6事業所が併設されている7階建ての複合施設となっております。4階から7階は区営住宅となっており、くるるえびすはその建物の3階で活動しております。

### 【名前の由来】

くるるえびすの《くるる》はフランス語のクールールcouleurを語源としており、彩りや色彩という意味を持っています。その人らしい「色」を引き出していくことで、一人ひとりの「個性」を大事にしたいという願いが込められています。

### 【活動紹介】

活動内容は主に『3本の柱』を中心に行っております。《アート活動》、《園芸活動》、《ダンス活動》です。

アート活動では、シブヤフォント(障がいのある人の文字や絵を、デザインを学ぶ学生がフォントやパターンにする取り組み)にも参加しており、

利用者の皆さんの個性あふれる作品が沢山の方の目に触れる機会をますます増やしていきたいと思っております。まだ開所して2年ではありますが、利用者の皆さんが自分らしさを色々な形で表現できるようになってきました。

園芸活動では、都内の生活介護施設としては珍しい有機水耕栽培に取り組んでいます。専門の講師の指導の下、レタスやサンチュ、バジルなどの葉物野菜を中心に栽培しています。まだ定期的な販売には至っていませんが、将来的に都市型農福連携の一つの在り方となればと思います。

ダンス活動は月に2回の講師によるレッスンで、音楽に合わせてリズムよく身体を動かすことで、利用者の皆さんが楽しく運動できる機会になっています。目標はステージで発表を行うことですが、今はそのための下地を丁寧に作る期間として、焦らず楽しんで活動することを大事にしています。

その他、ひまわりガーデン代官山坂プロジェクト(地域の方と一緒にひまわりを育てる活動)にも参加させていただき、地域交流も着実に深まっています。



初めての作品展示会(2022年6月)



ひまわりガーデン代官山坂



水耕栽培



画廊のようなくるるえびすの廊下

約3年もの間、私たちの生活を怯えさせ、生活様式をも変えてきた新型コロナウイルスが、感染症法上、2類相当から5類へと引き下げるとの見解が政府より発表されました。これまでの間、私たち障害福祉現場でも、あらゆるサービスの見直しを余儀なくされ、その度に利用者の皆さま、ご家族の皆さまにはご不便をおかけしました。

今後、いわゆる「コロナ時代」が終わり「withコロナ時代」の到来、さらにはウクライナ情勢を発端として起きている深刻な物価上昇などを見据えた生活を送る中、障害福祉サービス提供者として利用者の皆さまに対し、今まで休止していたサービスを復活させていくのか、または新形態を考え提供するのかを日々模索しているところです。新しいことを始めるには気力と労力が必要ですが、皆と協力しながらより良いサービス提供を目指しています。

ところで、先日、当施設の前の道路で「人が倒れている」と連絡が入り、当施設看護師と駆けつけたという出来事がありました。すぐに救急車を

呼び、大事には至りませんでした。その後、その方の親族がお礼に来てくださいました。当施設の看護師が対応したということで「とても安心したし、助かった。」との言葉を頂きました。『地域で共に助け合って生きていくということは、こういう事なんだろうな』と思いました。

社会の情勢により、様々な制限が多くなる中、目の前の小さな出来事に関心を持つことが大切で、ともに助け合って生きていくことや、相手の幸せを願い実現していこうとする行動こそが「新しい時代」で求められる支援者の姿であり、今も昔も変わらない姿であると思います。

これからも、利用者の皆さま、ご家族の皆さま、もちろん私たち自身にも様々な困難に直面することがあります。なかなか解決に至らず、しんどい思いをすることもあろうかと思えます。そんな時、ふと立ち止まり、もう一度「相手の幸せとは何であろうか」を考え、そして感じて行動出来る、そんな支援者でありたいと思っています。

## 編集後記

新型コロナの分類が季節性インフルエンザと同じ分類になりました。制限のある生活が長く続き、少しずつ緩和されてきましたが、ようやく一区切りとなりそうです。すべてが今まで通りにはならないと思いますが、制約の中でさまざまな苦労や工夫をされて支援に携わった皆様、思う通りの生活ができず我々以上に長く我慢された利用者の皆様、少しずつ日常を取り戻していきましょう。

広報委員 小川 毅（すぎな会愛育寮）